

研修会の様子

災害時の母子支援ボランティアの心構え

～避難所運営（HUG）ゲーム体験を通して～

災害時にも役立つ「子どもを守り、生き抜く知恵」をどのように妊婦さんに伝えていくのか？
地域や教育現場とどのようにコラボして「母子を守る連携や研修づくり」をしていくのか？
精力的に災害時対応の取り組みをされている先生方にお話しいただきました。

日時：平成 24年12月13日（土）13：30～16：30

場所：とわ助産院

参加人数：助産師、学生 合計15名



吉田穂波氏（国立保健医療科学院 主任研究官）

妊産婦や乳幼児や女性は災害弱者である。東日本大震災では、母乳のために優先的に食事や水分が必要でも、発信できない方々が多かった。集うことでパワーアップできるので、早い支援が必要である。

HUGゲーム

名嘉眞あけみ氏

（東京都助産師会災害対策委員長）

土屋麻由美氏

（麻の実助産院代表/東京都助産師会地区理事災害担当）

HUGゲーム（Hinanzyo Unei Game）で妊産婦や乳幼児や女性にやさしい避難所の作り方や運営方法の課題をリアルに学ぶことが出来た。



参加者の声

- とても勉強になりました。ありがとうございました。
- 母子を守るために助産師がもっと声をあげなければならぬと痛感した。
- HUGゲームは回数を重ねた方がよい。
- イメージ付けが出来ただけでも良かったです。多分、災害に直面した場合少しは役立つかな？と思いました。シミュレーション設定が必要で班を作っておく。会議などを利用して災害訓練を年に何回か訓練した方が良いと思います。

避難所には次々と避難者が来ます。まだ整っていないのに・・・認知症の方、外国人、子どもだけで来た、ペットは、妊婦さんは、怪我をしている、病気の人への対応は、トイレを置く場所は、駐車場はどうする、本部はどこに・・・まさに修羅場です。附箋を貼りながら、このコーナーは〇〇、お知らせコーナーを作って・・・やってみて初めて気づくことばかりでした。